

登録団体概要書

(2025 年 2 月作成)

(ふりがな) 団 体 名		とくていひえいりかつどうほうじん ふくしま こども かがわ ぶろじえくと 特定非営利活動法人 福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト			
代表者職・氏名		理事長 伊藤 洋			
主たる事務所の 所 在 地		〒760-0022 香川県高松市西内町 7-25			
連 絡 先 等		電 話	087-813-0715	F A X	同左
		e - mail	ZVF05007@nifty.com		
		ホームページ	http://fukushima-kagawa.com		
法人設立年月		2012 年 11 月		正会員数	43 人
活 動 目 的 (定款に記載された目的)		・一人でも多くの福島の子どもたちを一日でも長く放射能から守る。 ・福島と香川をつなぐ架け橋となり、息長く支援を続ける。 ・知識と関心を高めあい、すべての子どもたちの未来を守る輪を広げる。			
主たる活動分野		被災地および避難者を支援する活動、子どもたちの健全育成を図る活動、ボランティア活動を通じた人材育成活動			
活 動 状 況	主 な 活 動	・福島の家を「おいでハウス（生活用品のそろった民間住宅）」に迎えて香川のボランティアとの交流の機会をつくる。 ・避難家族の相談、生活支援、交流支援活動。 ・被災地のことを知るための講演会、上映会、写真展等の開催。 ・防災やボランティア活動に関する広報活動。			
	活 動 地 域	香川県内			
	活 動 頻 度	おいでハウス事業および、避難家族の支援は通年。講演会・上映会・写真展などは年2回。防災やボランティア活動に関する広報活動は年3回。活動報告は年間3回発行。毎月おいでミーティングを開催して上記活動内容について検討。			
	過 去 の 事 業 実 績	2011年8月以来、長期休暇中の13回の保養プログラム、8回のホームステイの他、年間を通じての「おいでハウス」での受け入れなどで、のべ約900名以上の福島の子どもたちやそのご家族を香川に迎えてきました。また、2014年度～2021年度は福島県の県外避難者支援事業を受託して避難者支援活動にも取り組みました。さらには毎年、高松市男女共同参画市民フェスティバルに参加しての講演会や上映会等の開催の他、「防災とボランティア展」や「和い輪い会」などにも参加。3月（または2月）には福島のことを知るための写真展や講演会も開催しています。			

今後の活動方針	災害の少ない香川県では歳月の経過とともに震災の記憶は風化しがちですが、福島状況を知ることによって、福島のことを他人事と思わない人たちの輪を香川の中に広げ息の長い被災地支援の機運を醸成したいと思います。
県民へのPR	福島と香川をつなぐ活動のことを知って頂き、福島子どもたちの今に関心をもって頂くことで、すべての子どもたちの未来のために私たちが何をすべきかをごいっしょに考えて頂ければうれしいです。

(注1) 団体登録された場合、この概要書は、寄附を検討する県民への資料として、公開されます。

(注2) 枠内に記入できない場合は、枠を広げて記入ください。A4版であれば、複数枚になっても結構です。

活動状況報告書

(2025 年 2 月作成)

団体名 特定非営利活動法人 福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト

登録要件	登録要件に関する団体の活動状況等
広く県民を対象とする N P O 活動を行っていること	毎年、高松市男女共同参画市民フェスティバルに実行委員として参加し、福島の現状を知る講演会、上映会、子どもたちの成長過程について学ぶワークショップなどを企画・運営し、多くの県民にご参加頂いています。また、高松市の「防災とボランティア展」香川県の「NPO・ボランティアパネル展」、高松ボランティア協会の「和い輪い会」にも毎年参加して、防災やボランティア活動に関する広報に努めています。 さらに、毎年3月（または2月）には高松市市民活動センターの壁面を利用した活動報告パネル展示を行ったり、瓦町 FLAG 8 階ギャラリーで被災地の現状を知るための写真展や絵画展、講演会などを開催したりすることによって、息の長い被災地支援の機運を醸成する取り組みを続けています。
より公益性の高い N P O 活動を行っていること	社会の中には様々な課題がありますが、大人たちが力を合わせてそれぞれのできる形でそれらに取り組もうとしていること、また、自分たちのことを大切に思っている大人がたくさんいることを感じながら成長していくことは、子どもたちにとってとても重要だと考えて活動しています。 また、東日本大震災をきっかけに香川に避難・移住してきたご家族が見知らぬ土地で孤立してしまわないよう、生活相談や交流の場づくりに取り組んでいます。何か問題があった場合は、ボランティアのネットワークや地域の社会資源を生かしてその解決を図り、それらのご家族が次のステップに進めるよう支援しています。
活発な N P O 活動を継続的に行い、当該活動に発展性及び模範性があること	高校生の時にボランティアとして参加してくれた若者が大学在学中もボランティア・リーダーとして活躍し、就職後も当団体の活動に参加するとともに、勤務地で中間支援のボランティア活動に参加するなど素晴らしい人材が育っています。 また、小学生だった福島からの保養プログラム参加者が、高校生、大学生になってヤングボランティアとして活動に参加してくれ、「香川が第二の故郷になった」と語ってくれるなど、福島と香川をつなぐ活動を継続してきてよかった、と実感しています。 被災した現地に出かけて活動することは、なかなか誰もがができることではありませんが、「自分の今いるところではできることをする」という活動のあり方の一つとして、福島のご家族を受け入れる活動や避難家族を支援する活動は、被災地の苦しみを他人事として忘れ去ってしまわないために、今後も大切なアプローチになると感じています。

(注1)この報告書は、団体の活動内容が登録要件を満たしているかを審査するための資料として用い、また、団体登録された場合、寄附を検討する県民への資料として、公開されます。

(注2)枠内に記入できない場合は、枠を広げて記入ください。A4版であれば、複数枚になっても結構です。

(注3)活動の状況等が分かる資料等があれば添付ください。